

# 「漢字音読名人」

## 平成29年度 1学期の取組結果報告



平成29年8月9日作成

東近江市教育委員会事務局 学校教育課

# 1 漢字指導改善研究の経過

「すべての子どもたちが無理なく漢字を習得していくための合理的な指導法」の研究開発を目標として、平成27年度から漢字指導改善研究を開始した。その概要は次のとおりである。

## ◆研究の仮説

①「読み書き同時進行」より「漢字の読み優先」の学習の方が学びやすいであろう。

- ・「読むこと」は「書くこと」に比べて抵抗が少ない。漢字学習が苦手な子も取り組みやすいのではないか。
- ・「読むこと」を優先させることにより、漢字の形や意味理解が進む。その上で書く練習に入る方が合理的なのではないか。また、書いて覚える練習の負荷も軽減されるのではないか。

②上学年の漢字もルビ付き表記で表示していくことは、子どもたちの学びに有効であろう。

- ・上学年の漢字も低学年から目に触れさせていくことで、漢字の「読み」「形」「意味」を無理なく学べていくのではないか。

③漢字を読む力が育つことによって、文章を読む力・情報収集力が育つであろう。

- ・漢字に読み慣れることで、活字本を抵抗なく読もうとする意欲が育つのではないか。
- ・新聞、各種資料からの情報収集力が高まるのではないか。

この仮説を実証するため、指導教材「漢字音読名人」を作成し、平成28年度、市内8小学校(11学級)で試行していただいた。

(3年生の「漢字音読名人」の例)

④	③	②	①	6
葉	酒	湯	苦	【確かめてみよう】 合巻
草の葉にバツが止まっている。 葉が茶色くなると落葉する。 もみじが赤く紅葉する。	飲酒運転は禁止です。 あま酒は子どもでも飲めます。	酒屋さんでお酒を買う。 ポットの湯でお茶を入れる。 熱湯がかかって大やけどする。 温泉のお湯につかる。	苦い茶を飲む。 マラソンはとても苦しい。 苦勞して、やっと宿題ができた。	【読んでみよう】

その結果、漢字の学習が「前より好きになった」と答えた子が全体では60%を超え、学力的な課題がある子どもたちも主体的に取り組めたという報告を得た。

本年度も実証研究を継続したいという願いから、5月の校長会議で提案させていただいたところ、数校、学校全体での取組を進めてくださるなど、取組が広がりつつある。その1学期の学びについて報告させていただく。

## 2 「漢字音読名人」1学期の取組結果の分析

平成29年度1学期、「漢字音読名人」に取り組んでいただいた学校の子どもたちに対して、次のようなアンケートをお願いした。

「漢字音読名人」についてのアンケート  
( ) 小学校 年 組

みんなが楽しく学べる漢字学習になることを願って、「漢字音読名人」を作ってみました。実際にやってみて、どうでしたか？アンケートに答えて、みなさんの気持ちを教えてください。

◎自分の気持ちに合うところに○をつけてください。

(1)漢字音読名人をやってみて、どうでしたか？

①( ) とても楽しくやれた。  
②( ) まあまあ楽しくやれた。  
③( ) あまり楽しくなかった。  
④( ) つまらなかった。  
《そう思った理由》

(2)漢字音読名人をやって、良くなったと思うことがありますか？

①( ) ある ②( ) ない

①に○をした人は、次の中から、「そう思う」というところに○をつけてください。(○はいくつでもいいです。)

ア( ) 読める漢字が増えた。  
イ( ) 漢字の勉強が好きになった。  
ウ( ) 漢字を書くことも、簡単にできるようになった。  
エ( ) 教科書の音読が、じょうずにできるようになった。  
オ( ) 文を書くときに漢字を使うことが増えた。  
カ( ) 読書が好きになった。  
キ( ) 国語の勉強が好きになった。  
ク その他に良くなったと思うことがあれば書いてください。

(3)「漢字音読名人」をやって、困ったことはありますか？次の中から、「そう思う」というところがあれば○をつけてください。(○はいくつでもいいです。)

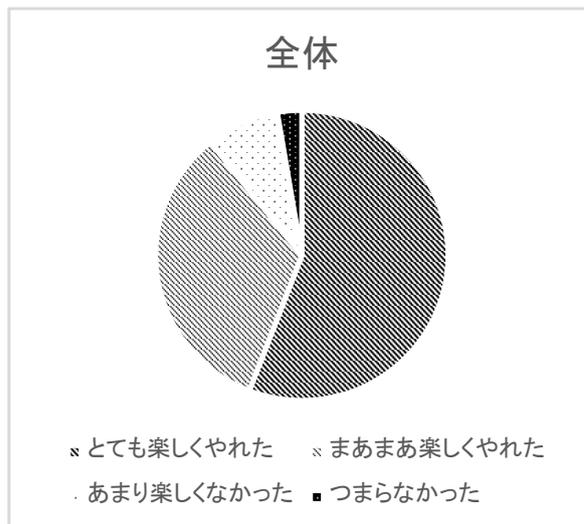
ア( ) 読めても意味が分からない。  
イ( ) 読めるようになって、すぐ忘れてしまう。  
ウ( ) 読めても、書けるようにならない。  
エ その他に困ったことがある人は書いてください。

「漢字音読名人」についてのアンケートに協力いただいた市内3校410名の集計結果とその分析を以下に報告させていただきます。

かんじ おんどくめいじん  
 (1)漢字音読名人をやってみて、どうでしたか？

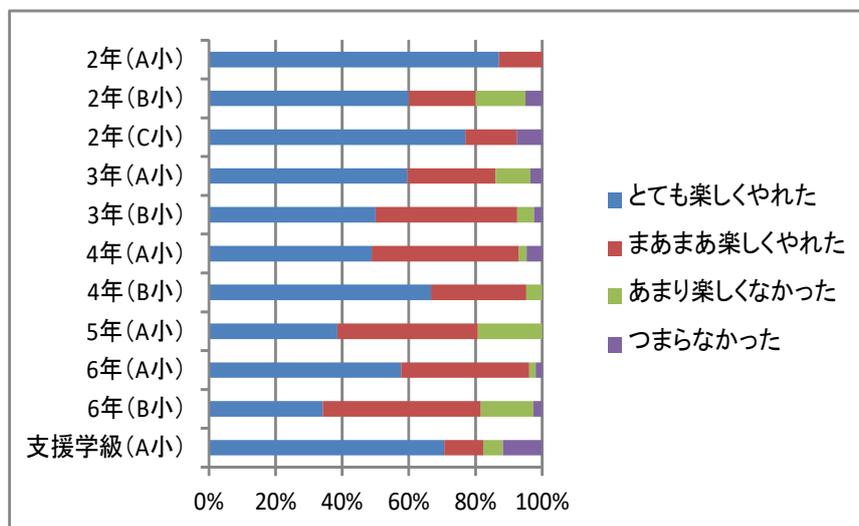
項目	とても楽しくやれた	まあまあ楽しくやれた	あまり楽しくなかった	つまらなかった
人数	229	137	33	11
%	56%	33%	8%	3%

全体の89%の子どもたちが、楽しくやれたと答え、楽しくなかった、つまらなかったと答えた子は11%であった。



右のグラフは、学年ごとの集計結果である。

特別支援学級を含め、どの学年でも80%以上の子どもたちが楽しく取り組めたと答えている。つまり、発達段階に関係なく、多くの子が「楽しくやれた」ということである。



では、子どもたちは「漢字音読名人」のどんなところに楽しさを感じたのだろうか。記述欄の回答をもとに、次のように整理してみた。

①簡単にできる

- ・ どんどんすすんでいってうれしかったから
- ・ すらすらかんたんにできる
- ・ かんたんだったから
- ・ 聞くとわかりやす、おぼえやすい
- ・ すぐにたくさんおぼえられたから
- ・ 読みやすい
- ・ 読むだけだったから
- ・ かんじを読むのがスラスラよめたから。たまによめないところがあるけど楽しかった！
- ・ 読んですぐに合格できるから
- ・ 問題がちょっとずつですぐおぼえられる

「ルビ付きの漢字を読む、読めたら消す、ルビ無しで読めたら合格、次へ進む」という、シンプルなドリルで、誰でも練習すれば着実に進めるという易しさが、「漢字は苦手」という子の学ぶ意欲も引き出せたと考えられる。

## ②「やった！できた！」という達成感

- ・とてもれんしゅうして、シールがもらえるし、どんどんすすめるから
- ・はんこやシールがたまった
- ・読めない漢字も読めるようになった
- ・OKがもらえ、クリアできるとうれしい
- ・クリアできてよかったから
- ・合格すると、やったあとという気持ちになる
- ・おぼえるのはたいへんだけど、ごうかくしたらうれしいから
- ・たくさん漢字をおぼえられたり、合かくするとうれしくなるからです
- ・あまりできないと思ってたけどできた
- ・覚えるのは大変だったけれど、合格かドキドキしたから！！
- ・できて合格した時がとてもうれしかったから
- ・がんばっておぼえようと思ってOKだった時、めっちゃ楽しかったです

「合格できてうれしかった」という感想は達成感は低学年から高学年まで一様に出ている。①の平易さとも関わり、どの子にも「やった！」という達成感が生まれることで意欲が高まっていたと考えられる。

## ③声に出して読むことの快感

- ・みんなが元気にうたっていたから
- ・音読しているとおぼえられた
- ・声に出して読むのが楽しい
- ・音読がすきだから
- ・読んだらとつてもたのしくなってくる
- ・リズムにのって楽しくやれた
- ・読んで言うのがすきだから

静的な「黙読」でなく、「音読」という動的な学習活動であるということも、活動的な子どもの特性に合っているとと言えるのではないだろうか。

## ④ゲームのような楽しさ

- ・習ってない漢字をしたから、クイズみたいだから
- ・ゲームみたいやったから
- ・みんなとあそぶのがたのしい

多くの学級で、子ども同士でチェックし合う形を取っている。それがゲーム感覚になるのだろう。子どもたちは、「学習」というより「遊び」感覚で楽しんでいる。

## ⑤友達との関係の深まり

- ・みんなとなかよく読めたから
- ・聞いてくれてサインもしてくれる
- ・友だちといっしょにできたから
- ・友だちとなかよくなれた
- ・友だちに聞いてもらうときんちょうしなくなった
- ・友だちに聞いてもらったりしたから
- ・読み合いっこができたから
- ・いろんな人とふれあえる

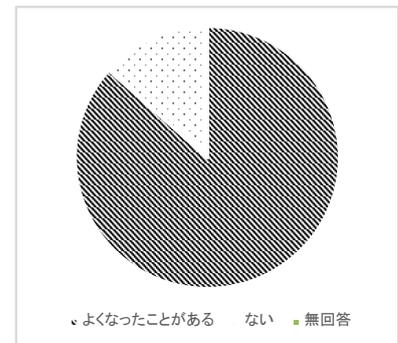
- ・楽しく仲良くなれる
- ・あまり話さない人とも話せた
- ・友情が深まった、相談できた
- ・仲良く交流できた
- ・教え合ったりできた
- ・みんなと楽しくできる
- ・そろって読めた
- ・ほかの人との交流が深められた

「漢字音読名人」を通じてクラスのいろんな人と関わることが良かったという回答が特に6年生に多く見られた。(仲間との交流の楽しさを記述している児童 6年：32 5年：3 4年：5 3年：5 2年：0)

他者との関係に様々な気遣いをする思春期の子どもたちにとって、漢字音読名人はその垣根を取り払う役割も果たしてくれているようだ。

(2)漢字音読名人をやって、良くなったと思うことがありますか？

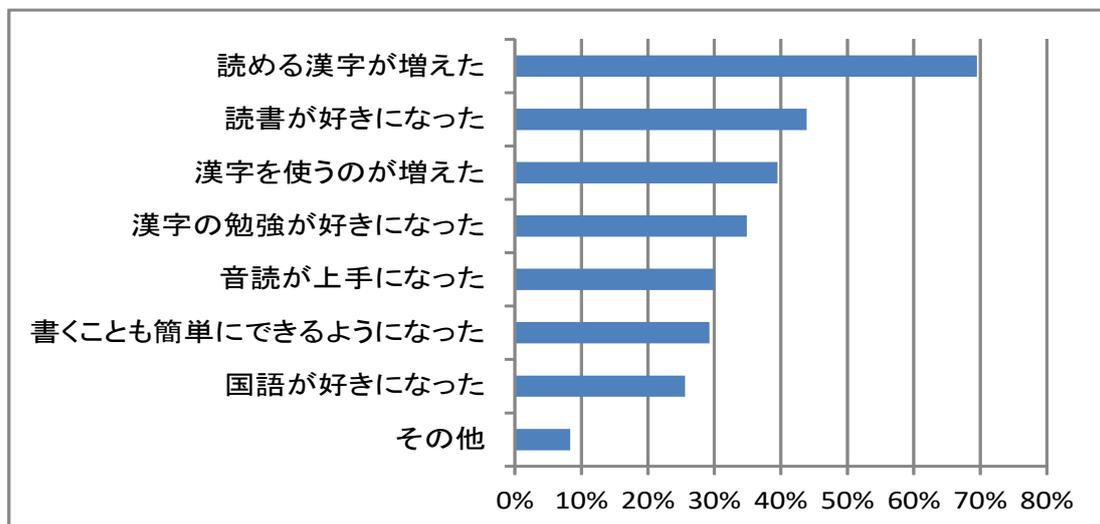
良くなったことがある	ない	無回答
356	54	1
87%	13%	0%



87%の子どもが「良くなったことがある」と答えている。  
子どもたちが「良くなった」と感じているのはどんなところなのだろうか。

※複数回答（母数は410）

読める漢字が増えた	漢字の勉強が好きになった	書くことも簡単にできるようになった	音読が上手になった	漢字を使うのが増えた	読書が好きになった	国語が好きになった	その他
285	143	120	123	162	180	105	34
70%	35%	29%	30%	40%	44%	26%	8%



### ①読める漢字が増えた

当然のことだが、約70%の子どもが「読める漢字が増えた」に○をつけている。「楽しかった」の記述欄でも漢字が読めるようになった快感を多くの子が書いている。

- ・ いっぱい読みたいと思いました
- ・ まだならっていないかん字もわかる
- ・ 習っていない漢字もいっぱいおぼえられた
- ・ わからない字も読めるようになった
- ・ 新しい読み方をおぼえた
- ・ 漢字の言葉をおぼえられる
- ・ むずかしい漢字も読めるようになった。習っていない漢字も読めるようになった
- ・ 中学校で習う漢字を先に見られた
- ・ 漢字音読名人をやっていたら、漢字の読み方もわかるし、この言葉にはこの漢字がつかえるとかもわかる

また、漢字音読名人では、上学年の漢字もルビ付きで表記しているが、そのことに困難を感じたという記述は全く無かった。むしろ、未知の漢字に対して知的好奇心を高めていることがこれらの感想から読み取れる。仮説②の妥当性を裏付けるものと言えるのではないか。

### ②読書が好きになった

全体の44%の子どもたちが「読書が好きになった」に○をつけている。

- ・ 読書がおもしろい。漢字の書いてある本が読めるようになった。

記述欄で読書に触れて書いている子は1名だけであり、漢字音読名人の取組と読書への関心の高まりにどんな相関関係があるのかは不明である。今後、子どもたちへの聞き取りをとおして、詳しく分析したい。

### ③文を書くとき漢字を使うことが増えた

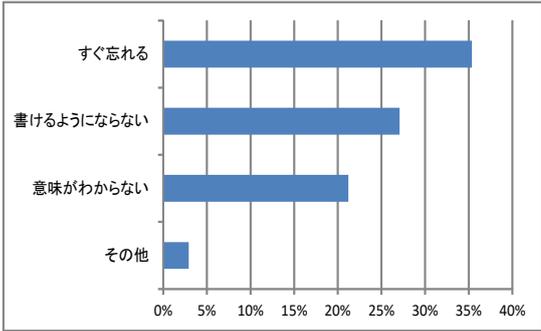
「文を書くとき漢字を使うことが増えた」に○をつけた子が40%もいた。1名だけだが、記述欄には次のような感想もあった。

- ・ ぜんぜん漢字をおぼえられない。ぜんぜんたのしくない。でも、文を書くときよく漢字を使うようになった。

これはどういうことだろうか。漢字音読名人の例文を音読し続ける中で、漢字交じり文の方が自然で読みやすいという感覚が育ったということではないか。ただこれも推測であり、今後、子どもたちへの聞き取りをとおしていねいに分析したい。

かん じ おんどくめいじん こま  
 (3)「漢字音読名人」をやって、困ったことはありますか

意味がわからない	すぐ忘れる	書けるようにならない
87	145	111
21%	35%	27%



「意味がわからない」「すぐ忘れる」「読めても書けるようにならない」、この3つのうち、特に重視したいのは、「意味がわからない」である。

漢字音読名人の取組を「楽しくなかった」と回答した子(44人/410人)の記述欄には次のように書かれている。

- ・むずかしかった
- ・ちょっとむずかしいから
- ・あんまり進められなかったから
- ・むずかしい漢字が読めなかった
- ・覚えるのがたいへん
- ・あまり読めなかった
- ・やってもおぼえられない
- ・ほとんどちがうから
- ・めんどくさい
- ・だるい

ルビ付き表記の漢字交じり文を読むこと自体はむずかしいことではない。にも関わらず「難しかった」と感じたのは、「漢字・熟語の意味理解」が伴わない形式的な音読にとどまっていたからではないか。一生懸命取り組んだ子どもたちの中にも、「意味が分からない」にチェックを入れている場合が少なくなかった。「意味理解」つまりエピソード記憶としての理解が弱いから忘れやすく、確かに「書ける」力につながっていかないということではないか。

教師アンケートの中にも「意味を知ればもっと覚えやすいと思う言葉があったが、一つひとつ教えている時間がなかった。」という記述があった。

「漢字音読名人」の取組における「意味理解の欠如」の課題については、今後の実践の中で克服の手立てを見つけていきたい。

ただ、「すぐ忘れる 35%」という結果を逆から見れば、半数以上の子どもたちが、忘れることなく定着させているとも言える。「漢字音読名人」の取組が「楽しい活動」であり、「もっと読みたい、合格して先に進みたい。」と主体的に取り組んだことが、強く確かな記憶につながったと言えるのではないだろうか。

### 3 2学期への展望

1学期取り組んでくれた子どもたちからは、予想以上の好評価を得ることができた。2学期も引き続き取り組むことで、更に確かな成果を上げられるのではないかと期待する。

2学期の取組で追求したいことは、次の3点である。

#### (1)漢字の意味理解の過程をどう組み込むか

「漢字音読名人をやっていたら、漢字の読み方もわかるし、この言葉にはこの漢字がつかえるとかもわかる。」という子どもの記述にあるように、例文に出てくる漢字・熟語の中で、子どもたちの日常生活で使っている言葉については、それほど困難を感じることなく理解しているのではないかと考える。

問題は、非日常の抽象的な概念を表す漢字・熟語の場合である。これについては教師からの解説・例示が必要となる。子どもが困りそうな漢字・熟語についてはあらかじめ指導する、あるいは、子どもからの質問タイムを設定するなどして対応できないだろうか。

その他、実践校の創意工夫によって、この課題を克服したい。

#### (2)漢字の「書き」の指導の工夫

1学期の取組で「読み優先」の着実な成果を得た。次の目標は、「読めるようになった漢字を書けるようにする」ことである。

その指導に当たって、一つの提案は、「量より質」である。音読名人の取組をとおして、子



### ■「漢字歌メドレー」

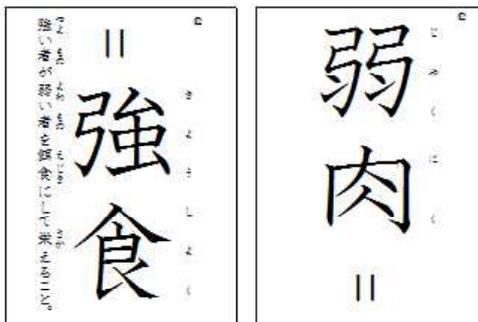


- 低学年を想定している。  
子どもたちがよく知っている歌をメドレーにし、歌詞を漢字交じり文で表示させることで、楽しく歌いながら歌詞の漢字を自然に覚えていくことを意図している。

### ■四字熟語合わせゲーム



- 四字熟語を2字ずつ二つのカードに分け、トランプのババ抜き、あるいは神経衰弱ゲームのようにしてグループで遊ぶ。



## 4 最後に

「漢字音読名人」に関心を示しつつも、すでに週時程・日課表で一日の学習活動が決まっており、新たな取組を入れる余裕が無かったという学校も少なくなかった。

今後、「漢字の読み優先指導」について、教育課程の中にどのように位置づけるかについて検討する必要がある。ただ、これまでの取組で「漢字の読み優先指導」の有効性はかなり実証されつつある。今後、更に多くの学校で実践の輪が広がり、東近江市全体の子どもたちの学力向上に資するものになることを切に願う。

■ 1学期、「漢字音読名人」に取り組んでいただいた学校

蒲生北小学校  
蒲生東小学校  
八日市西小学校  
愛東南小学校 2年  
玉緒小学校 4年